



後部座席から見た公道実証風景

開発者インタビュー

ロボット分野

# お出かけ支援でも、知識の前進！ 地域交通のプラットフォーマー。

株式会社会津ラボ 事業実施場所：浪江町  
福島トヨペット株式会社

—— 実用化計画開発期間 2017年度～2019年度

## 自動運転に係る情報基盤の構築及び まちなか巡回車両の実用化に向けた実証試験

### そこに暮らす人の視点で考える

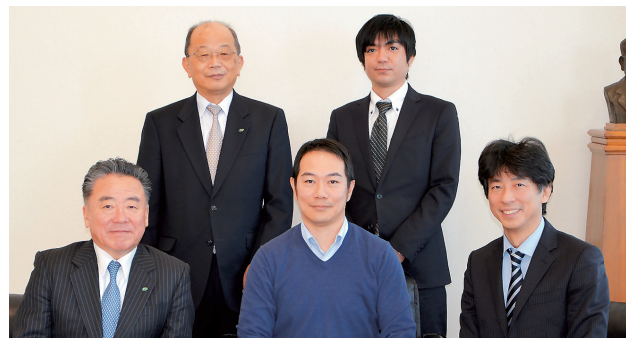
浪江町と、私たち会津ラボとの縁は「高齢者の見守りサービス」実証試験を通して始まりました。世帯ごとに消費電力データを計測・記録・管理するスマートシステムは、コンセント型『SMART PLUG』、ブロックチェーン、スマホ専用アプリで構成。離れて暮らす家族や知人が日頃の様子を確認したり、異常時にアラートを通知したりする仕組みです。

ご高齢の方々の多くが、公共機関や商業施設と行き来する手段に事欠いている。そうした実情も、他人事とは思えなくなりました。帰還住民のQOL向上、地域コミュニティ活性化にも役立つプロジェクトを通して移動困難者一人一人のチカラになる、との思いは深まります。

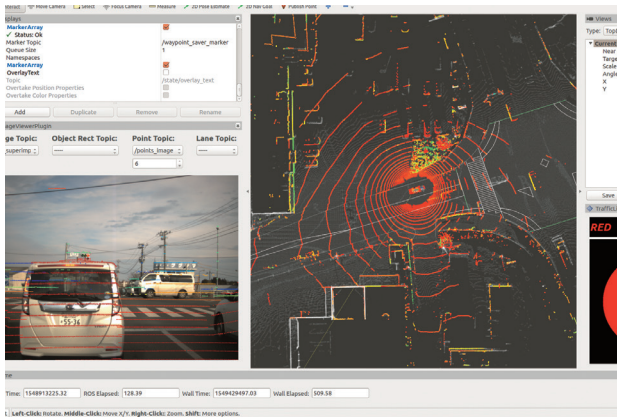
リアルな現実と対峙し、解決の道筋を探りながら自動運転技術の実用化へ向けてフェーズを進行させます。待ち望まれている社会システムのプラットフォーマーとして、会津ラボが情報・技術基盤の構築と現地実証を統括します。協働パートナーを務める福島トヨペットは、地元愛を体現すべく車両の整備・運用・保守点検を担います。フィールドを提供してくださる地元自治体、道路の管轄や法制という立場で協力してくださる警察など、関係方面との密接なヨコ連携が心強い限りです。

2018年12月3日、公道を使ったLevel3（条件付運転自動化）

での自動走行実証がスタートしました。JR浪江駅前と町役場を結び約1kmの県道を、時速30kmで往復しました。すぐにハンドル、ブレーキを操作できるよう運転席に人が座り、助手席の同乗者は、走行状態を監視して安全確保に努めながら実証を行っています。福島県内で初めての試みは、オンデマンドタクシーのような公共交通サービスの実現へ結び付きます。浜通り・浪江での実証を経て、その成果を中通り、会津の各地へと広げていくのがミッションです。



福島トヨペット株式会社 代表取締役専務 管理本部長 橋本 健氏	株式会社会津ラボ 取締役 プロジェクトマネージャー 常世 仁一氏	
福島トヨペット株式会社 代表取締役社長 佐藤 修朗氏	株式会社会津ラボ 取締役 コンピュータ理工学博士 久田 雅之氏	株式会社会津ラボ 代表取締役社長 松永 州央氏



自動運転ソフトウェアによる信号認識



平成30年12月3日の公道実証セレモニー

## システム需要は、道の数だけ

ミニバン型の試験車両 (ZMP 提供) に全方位レーザー、カメラ、車両制御ソフトを搭載しました。センサーデータ、走行データや周辺環境の情報を収集し、多岐に渡るデータをクラウド上に集積させます。運行管理システム、各種データを保持・共有する情報基盤と統合させて、地域ごとの運用システムを構築するのが狙いです。

信号が赤に変わると正確に停止し、信号機が設置されていない横断歩道では自動ブレーキが作動するなど、試験走行に手ごたえを感じています。こうした一方、レベル3⇒レベル4へと段階を進めるためにクリアすべき課題が具体化してきました。たとえば天候や太陽光線の状態、さらに歩行者や他車の存在など、その時々状況に即して安全確実に走行できるよう、システム体系を整える必要性を痛感しています。

5G(第5世代移動通信システム)という画期的な高速・大容量サービスを活用すると、車車間通信の共用で交通体系のインテリジェント化が進むと考えられます。専用の車載器を介して無線通信を行い、死角となる位置に現れた車両の存在を知らせるなど、お互いの安全に結びつくような走行環境を巡る情報を受け取れます。クルマとクルマが、インテリジェントな関係を結びながら街を往くイメージです。路線ごとにデータベース構築やアップデートが欠かせないので、運行システムに携わるソフトウェア人材の雇用拡大という意味でも波及効果は高いです。

## 自動運転技術の開発に、エール

### ●浪江町役場

「平成31年3月、浪江町は福島第一原子力発電所事故による全町避難からの一部避難指示が解除され、約2年となります。しかしながら帰還人口が約870名とまだまだ少なく、買い物環境、医療機関などの生活インフラが整っていないため、住民の足の確保が課題となっています。このような中、株式会社津ラボ様が町内に研究開発拠点を設置。平成30年度は、県内で初めて公道での自動運転実証試験を行いました。当町をフィールドに、先端技術の開発を行っていただけるのは夢のある話です。明るい情報発信の一環となり大変ありがたく思います。被災地では、あらたに働き手を探すことも難しいため、この自動運転技術を活かす「自動運転タクシー」や「自動運転代行」などへの応用による実用化への期待も高まります。法制度の対応・インフラの整備・革新的な技術の探究といった面で、まだまだ課題はあるかと思いますが、浪江から発信される自動運転技術の進化と普及を、心から応援しています」

## レベル3をクリア、さらなる高みへ

### ●開発スタッフ

「被災地復興へ向け、自動運転技術の実用化に取り組んでいます。本年度、レベル3の自動走行を公道で実証できたので、少しずつ成果が出ていると実感しています。完全な実用化へは乗り越えるべき障壁があるものの、できる限り早期の実現を目指して研究開発に邁進しています」

## 法人概要



### PROFILE

企業名▶株式会社津ラボ  
創 業▶2007年1月4日  
代表者▶代表取締役 松永州央  
従業員数▶25名  
住 所▶〒965-0059  
福島県会津若松市インター西53  
T E L▶0242-23-8285  
U R L▶http://www.aizulab.com/

### OUTLINE

- iOS/Android アプリ開発、WEBシステム開発、3DCG・画像・映像制作
- IoT、EMS、スマート農業、ドローン、自動運転など新技術領域における研究開発
- 観光クラウド「指さしナビ」



### PROFILE

企業名▶福島トヨペット株式会社  
創 業▶1956年10月13日  
従業員数▶597名  
売上高▶29,187百万円(2017年3月)  
住 所▶〒963-8511  
福島県郡山市川向1-1  
T E L▶024-946-1111  
U R L▶http://www.fukushima-toyopet.co.jp

### OUTLINE

福島県全域をカバーするトヨタ系ディーラーとして相双・いわき・東北・県中・県南・会津の6エリアに計22店舗を展開しています。それぞれの地域に根ざし、カーライフの身近なパートナー役を務めています。●トヨタ車・レクサス車・フォルクスワーゲン車・U-carの販売やメンテナンス●保険代理業●KDDIグループ商品の販売